

銀の道商工会 令和3年度 経営発達支援事業実績

《自己評価》 A：大変効果があった B：まあまあ効果があった C：あまり効果がなかった D：まったく効果がなかった

経営発達支援事業		評価
1. 地域経済動向の調査 ①景況調査の実施 目標 15 事業所 ⇒ 実績 15 事業所 景況調査先 7 事業所 + 別途 28 事業所を選定し四半期ごとに実施。 ②観光入込調査の実施及び市観光動態調査のデータの分析 温泉津温泉の宿泊者に対してアンケート調査を実施するとともに、管内の主要観光施設の入り込み状況や温泉津温泉の受け入れ体制改善のための参考資料として、それぞれ集計分析し広報紙にて会員事業所へ情報提供した。 調査先の景況や観光客入り込み状況を把握し県内・管内の動向を事業所に周知するとともに、指導・助言を行い事業計画策定・実施につなげた。		B
2. 経営状況の分析 ・経営分析セミナーの開催 目標 1 回 ⇒ 開催実績なし ・経営状況の分析支援 目標 24 事業所 ⇒ 実績 24 事業所（うち専門家活用 4 事業所） 専門家活用と経営指導員によりほぼ定量目標の経営状況の分析を行い、実現可能で事業所の持続的発展が見込める事業計画策定につなげた。		B
3. 事業計画策定支援 ・事業計画策定セミナーの開催 目標 1 回 ⇒ 開催実績なし ・事業計画策定支援 目標 24 事業所 ⇒ 実績 24 事業所（うち専門家活用 4 事業所） 経営状況の分析をした事業所を対象に事業計画策定を支援 ⇒ 専門家活用と経営指導員により定量目標に近い計画策定につなげた。しかし、中には実現可能性の低い計画策定に終わった先もあり、より実現可能性の高い計画策定の必要性がある。（次年度以降の課題）		B
4. 事業計画実施支援 ・事業計画実施支援 目標 24 事業所 ⇒ 実績 24 事業所（うち専門家活用 7 事業所） 事業計画策定先に対する実施支援を行い、定量目標はクリアしたものの十分な支援とは言えなかった。 次年度は、専門家と連携して前年度までに事業計画を策定した事業所を優先的に計画の検証を行い、事業継続の観点での成果をあげたい。		B
5. 需要動向調査 前年度まで日経MJの抜粋資料を収集し事業所に対し情報提供を行ってきたが、情報内容や提供方法についての見直しを検討した。事業計画策定支援につながるよう次年度の課題としたい。		C
6. 新需要開拓 ①観光需要の開拓 大田市、観光協会、旅館組合と連携し温泉津地区の観光資源や施設、イベント開催などの情報発信を行い観光需要の開拓に取り組む予定であったが、新型コロナウイルスの影響によりイベント等が中止になり実施できなかった。 ②地場製造業に対する販路開拓支援 練り製品製造業・食品加工業の展示会への出展支援（実績 1 事業所）については、一定の評価を得て定番として取引が治まった案件もあり今後に期待が持てる。 新たな商品づくりについては、専門家を招聘し食品製造業者個々での取り組みを支援した結果、練り製品の新品開発が順調に進み次年度以降は商品化し流通に乗るよう支援して行く。		C
地域経済の活性化		
1. 魅力ある温泉津温泉街づくりへの取組 協議会事務局との情報交換により、観光振興等について連携を図った。温泉街の創業支援。 2. 地域活性化につながる賑わい事業 地域活性化の観点で、従来からのイベント「産業祭」「温泉津温泉夏祭り」「仁摩ごいせ祭り」「海神楽」を開催計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止。また「リレーマラソン」や「グルメフوند」など新たなイベント開催の支援はコロナ禍であったが感染防止対策をしたうえで実施した。 3. 道の駅整備に向けた検討 道の駅整備計画について、道の駅推進室や運営団体との意見交換や地元業者に対する事業説明会を開催し情報共有に努めた。		B
支援能力向上の取り組み		
1. 支援機関連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換 研修やブロックの定期的な連絡会議で、タイムリーな情報交換や資質の向上を図っているが、職員間の情報共有の点では充分とは言えなかった。		A
2. 経営指導員等の支援能力向上 研修会への参加による職員資質向上を図り、加えて個々でのスキルアップに取り組んだ。特に若手指導員については、各種研修会受講が能力アップにつながった。		B
3. 事業評価と見直し 3カ月に一度の職員会議で取り組み状況の検証・見直し・評価を行い役員会で報告予定。		B